



防災力の向上

災害時における地図製品等の供給等に関する協定

菊陽町は株式会社ゼンリンと「災害時における地図製品等の供給等に関する協定」を11月21日、菊陽町役場で締結しました。

この協定は防災力の向上を図ることが目的。菊陽町で災害などが発生したときに即時に住宅地図が利用でき、平常時から防災に関する情報交換を行うことで防災・減災に貢献する地図の作成を検討します。今後も町民が安全で安心な生活ができるよう、災害に強いまちづくりを進めていきます。



▲株式会社ゼンリンと協定を結んだ菊陽町

思いやりの心を育む

人権の花運動で風船飛ばす

菊陽西小学校が11月17日、学校で育てた「人権の花」の種を紙風船に付けて同校の運動場で一斉に飛ばしました。これは児童が協力しながら花の種と球根などを育てることで協力することや感謝することの大切さを学び、優しく思いやりの心を育むことが目的。5年生の小林春太さんは「大切に育てた花の種なので大切に育ててほしいです」と話していました。花の種を付けた風船は空高く飛んでいき、翌日には高知県四十市から「風船が飛んできた」と連絡がありました。



▲種とメッセージを付けた風船を一斉に飛ばす西小児童

生垣でつながる学生と住民

第33回鉄砲小路生垣せん定作業

東海大学農学部^{みやもとかずき}の学生24人が11月9日、鉄砲小路区で地元住民と約4^{とだよしひろ}の生垣のせん定作業をしました。これは「緑の会」と鉄砲小路区の住民が年1回行っている交流事業。この事業は生垣保存の重要性を伝えるために昭和57年から東海大学の故戸田義宏教授を中心^{とだよしひろ}に始まりました。

東海大4年生で緑の会代表の宮本和輝さんは「生垣のせん定をとおして、これからも地元の皆さんと交流を深めていきたい」と話していました。



▲生垣をきれいに刈りそろえる東海大学農学部の学生

広げよう！動物愛護の輪

動物愛護推進活動

県獣医師会大津支部と県動物愛護推進員による「動物愛護推進活動」が11月8日、すぎなみフェスタ内で行われました。

これは動物の愛護と適正な飼育の普及啓発を図ることを目的としたものです。会場にはペットのお悩み相談窓口や手作り迷子札の作成コーナー、動物クイズラリーなどが設けられました。訪れた大勢の家族連れなどは楽しみながら動物の愛護などについて理解を深めていました。



▲大勢の人が迷子札の作成やペットの悩み相談をしました

じょろろ〜ん！魅力的な「わにわに」

山口マオさん「版画ワークショップ・講演会」

絵本作家でイラストレーター^{やまぐち}の山口マオさんが11月15日、図書館ホールで版画ワークショップと講演会を行いました。山口さんは小風さちさんと共作の絵本「わにわに」シリーズの製作者。これは力強い版画で描かれた魅力的な緑色のワニ「わにわに」のいろいろな日常が詰まった絵本で、子どもたちから大人気です。

版画ワークショップでは子どもと保護者計22人が版画作りを楽しみました。山口さんは版画の線の書き方や彫刻刀の使い方などを丁寧に教えていました。

中部小4年の濱田恭輔さんは「彫るのは大変だけど楽しい。アドバイスを生かして頑張ろうと思う」と夢中で彫っていました。参加者は思い思いの好きなイラストで版画を作り、出来栄に大満足の様子でした。

講演会では山口さんが絵本「わにわに」シリーズの製作秘話を説明。山口さんは『「わにわにのおふろ」でわにわにがお風呂に豪快に飛び込むページは、小風さんの原稿では『じょろろ〜ん』の1文だけでした。イメージを膨らませて版画にしています』などと絵本が出来上がるまでの過程を楽しく話していました。



1親子に版画の作り方を教える山口マオさん(中央)2「うまくできた！」3子どもたちが丁寧に作った版画。それぞれの個性が光る4ワークショップに参加した子どもたちと山口マオさん

熊本の地下水を学ぶ

白川中流域地下水啓発講座

財団法人肥後の水とみどりの愛護基金などの主催の白川中流域地下水啓発講座が6月8日～11月16日にかけて菊陽町と大津町で全6回開催され、延372人が参加しました。

最終開催日は大田黒忠勝さん(大津町)が11月16日、菊陽町杉並木公園管理センターで「農を守って水を守る」と題して講話を行いました。大田黒さんは平成13年から作付け前のにんじん畑に水を張る湛水農法を実践してきた農家です。白川の水はミネラルに富み、水を張ることで農薬を使わず、化学肥料などの使用を3分の1以下に抑えても、良質のにんじんが生産できたことなどを解説しました。また、近年の米の価格低迷が農家の意欲を削ぎ、そのことが熊本地域への地下水資源の減少に繋がるのではないかと話していました。

【水田湛水事業による平成25年度の推定^{かん}涵養量】

菊陽町：約661万立方^{かん}メートル

大津町：約949万立方^{かん}メートル

※1日の減水深を平均10^{かん}センチメートルとして算出しています。



▲熱心に講話に聴き入る参加者



▲世界の水飲み比べコーナー



菊陽町から宇宙へ

ナカヤマ精密株式会社が宇宙開発の一翼を担う

小惑星探査機「はやぶさ2」搭載のH2Aロケット26号が12月3日、種子島宇宙センターから打ち上げられました。町の誘致企業であるナカヤマ精密株式会社(原水)は同機のエンジンノズル(噴射口)の作成に携わりました。これは機体姿勢を制御する非常に重要な部品で、帰還予定の2020年まで、電力を賄う太陽光パネルの向きの修正や小惑星での物質採取など重要な役割を担います。今回の打ち上げと部品加工の様子はテレビ番組でも放送され、大きな注目を集めました。



▲打ち上げの様子を見守る中山愼一社長(前列左から2番目)

力合わせて門松作り

西小のおやじ委員会「門松作り」

菊陽西小学校のおやじ委員会(石原稔郎委員長)が12月7日、同校の校門に門松を立てました。

この日は委員10人と教頭の羽根田祐一さんが参加して造園業を営むO B 園田秀明さんの指導で制作。前村公徳さん(新山)の山で竹を切り出し、玄関前で作業をしました。竹を切ったり割ったりと手際よく作業が進み、高さ240センチ、210センチ、180センチの3本の竹を組み合わせ、梅や松、南天、葉牡丹、マンリョウを植え、高さ3メートルの立派な門松が完成しました。



▲西小校門に立派な門松を立てたおやじ委員会

卒業制作の額縁に

菊陽町地域婦人会「武蔵ヶ丘中にバザー収益寄贈」

菊陽町地域婦人会(岩根裕美子会長)は12月3日、武蔵ヶ丘中学校へすぎなみフェスタ2014のバザーで得た収益の一部を寄贈しました。岩下昭彦校長は「生徒の思いが詰まった卒業制作の額縁に使わせてもらいます。婦人会の協力があって実現できました。本当にうれしい」と感謝。生徒は「製作した40人みんなの彫りをそろえたり周りを紙やすりで削って木版に入れ込んだりすることが大変でした。卒業後もずっと学校に残るので丁寧に作り上げました」と話しました。



▲思いが詰まった卒業制作を囲む岩下校長と婦人会

農産物の販路拡大を目指す

第3回九州食の展示商談会

九州食の展示商談会が11月19日・20日、グランメッセ熊本(益城町)で開催され、町内の若手農業者5人がそれぞれの農産物を出展しました。

これは九州各県の農業者や商工業者が農産物や加工品を出展し、卸業者や飲食店など全国から訪れた仕入れ責任者と直接商談をするものです。出展した若手農業者は交渉の中でそれぞれの農産物の特徴などを説明。訪れた仕入れ責任者の話を聞くことで、どのような商品が求められているのかを勉強していました。



▲仕入れ責任者と商談する若手農業者(左)

「楽しい」が成長の秘けつ

スペシャルオリンピックス2014福岡

スペシャルオリンピックス2014福岡が11月1日～3日、福岡県内各所で行われ、眞鍋光さん(あさひヶ丘)が体操で銅メダルに、白石大輔さん(光の森3町内)が卓球で銀メダルに輝きました。スペシャルオリンピックスは知的障がいのある人に年間を通してスポーツトレーニングと成果を発表する場の競技会を提供する国際的なスポーツ組織です。

7歳から体操を始め、「他のアスリートやコーチとの交流が楽しかった」と当時を振り返る眞鍋光さん。大会では、親元から離れて競技に挑むため「成長できる良い機会」と母・和代さんは光さんを優しく見つめます。光さんは「銅メダルがとれてうれしい。これからも体操を続けたい」と意欲を燃やしていました。

白石大輔さんは卓球歴約10年で仕事の合間に週2日の練習を続けています。「まじめで努力家。だいたいちゃんが頑張るから私も頑張ろうと思う」と卓球仲間には笑顔。白石さんは「スマッシュが決まったときは本当にうれしい。目標は金メダルをとること。もっと技術を高めたい」と話していました。



▲「大会も緊張しなかった」という眞鍋光さん



▲こつこつと練習を続けている白石大輔さん

一流のジャズを堪能

菊陽町図書館ホール芸術文化公演

菊陽町図書館ホール芸術文化公演「トランスコンチネンタルデュオ with デビッド・マッシュューズ アジアントリオ」が11月23日、菊陽町図書館ホールで開催されました。

公演では、国際的に活躍するロシアンギターとフルートの2人組の演奏家「トランスコンチネンタルデュオ」をメインに、ジャズを中心とした一流の音楽が披露されました。ゲストとして国内外から5人の国際的なジャズ奏者が集結。特に、グラミー賞受賞の音楽家でジャズ界の世界的巨匠デビッド・マッシュューズさんの演奏するステージに聴衆は聴き入り、あふれんばかりの大きな拍手を送っていました。

1年ほど前まで大津町を拠点に音楽活動をしていたマッシュューズさんは「熊本で演奏できてうれしい。機会があればまた図書館ホールで演奏したい」と感激した様子で話していました。

公演後はサイン会が行われ、出演した演奏家全員が一人一人に誠実に応じ、来場者は演奏家との夢のようなひとときを楽しんでいました。



▲大勢の来場者を魅了したステージ



▲和やかに行われたサイン会